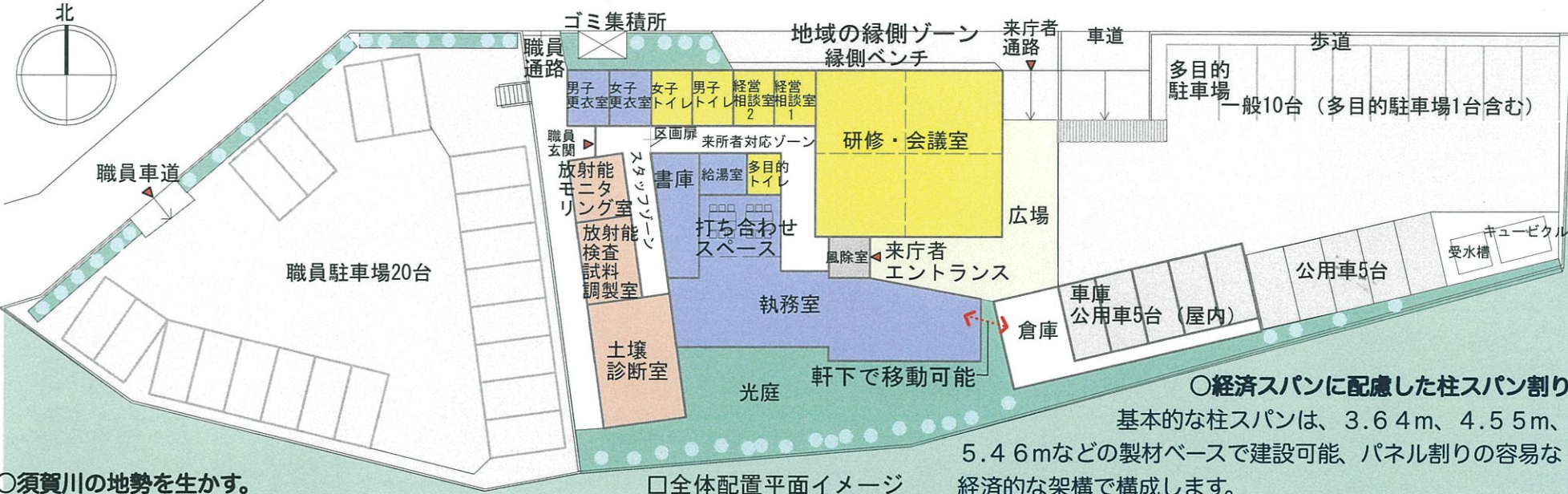


# 地域の縁側



## ○須賀川の地勢を生かす。

- ・須賀川市は4割以上に森林があり、阿武隈川、釈迦堂川など良好な自然環境が周囲にひろがっています。日照や雨、風など、自然豊かな須賀川の地勢を活かした建物計画とします。
- ・須賀川市において期待採量が多い太陽光発電設備を最大限活用します。
- ・南側からの採光により、太陽光を十分採り入れ、冬場の暖房負荷軽減を行います。
- ・須賀川市は古くから宿場や城下町としての歴史があり、馬の背大地(高台)という安全な環境が、神社、仏閣を数多く生み、暮らしの繁栄が現在も残る蔵など、須賀川市ならではの文化や伝統があります。例えば、宿場の格子のデザインなど、地域の個性としてデザインに採り入れ、親しみのもてる庁舎とします。



## ①周辺地域の共生

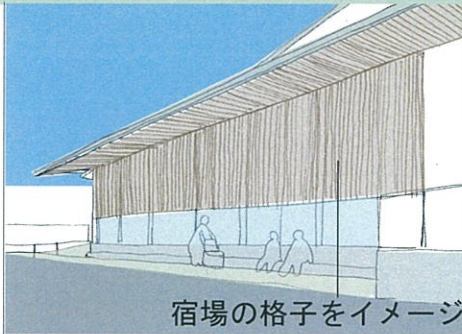
- 馬の背大地の地形とも呼応する勾配屋根 □小さな屋根が連続するイメージ
- ・住宅団地に隣接していることから、建物のボリュームを住宅と調和する小さな屋根型の連続した建物とすることで、地域に溶け込みます。小さな屋根の連続で生まれる屋根と壁のすきまのハイサイドライトを使って効果的な採光と通風をします。それにより、施設のどこにいても外を感じられるような明るく風の通り抜ける空間をつくります。

## まちの方々が気軽に立ち寄れる「地域の縁側」を生み出します。

- ・馬の背と呼ばれる高台の街角に位置し、上り下りの坂道のある路地や住宅街がつづきます。建物北側の縁側ベンチは、北側道路のレベルに合わせて、歩道も兼ねた地域の縁側ゾーンとして開放し、地域の道ゆく人たちが、ふと足を休められる軒下空間の縁側(縁側ベンチ)になります。
- ・この軒下空間の縁側は、時には若手農業者による直売会の会場にもなります。さらに、オープンスペースを活用した農業者による即売会などのイベントの入口として、気軽に訪問、交流できるしかけとなります。
- ・オープンスペースは、木製の気密にも有利な横軸回転扉や引戸を東面建具に採用し、内部空間、外部空間を一体化したイベント利用が可能な空間として、多様な屋外空間の活用が可能です。

## □全体配置平面イメージ

○経済スパンに配慮した柱スパン割り  
基本的な柱スパンは、3.64m、4.55m、5.46mなどの製材ベースで建設可能、パネル割りの容易な経済的な架構で構成します。



□縁側ベンチイメージ  
北側道路のレベルに合わせ、歩道も兼ねた地域の縁側ゾーンとして開放します。車対策にポールを等間隔に設置し、安全に休憩、井戸端会議ができる場所です。奥行きが、2.5mあるので、直売会場にも早変わりできます。

## ②次世代の農業普及所としての施設機能の実効性の確保

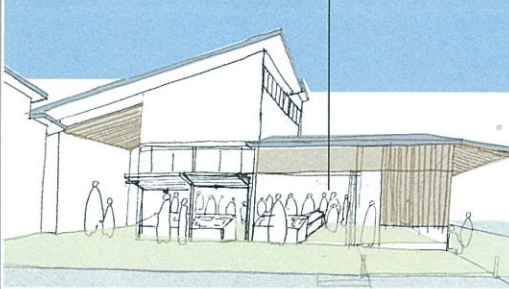
### 研修・会議室は一つの空間に多様な場所をつくる。

- ・間仕切り建具やカーテン間仕切り、外部開口の変化で、一つの空間が大きな場所から、小さな落ち着いた場所など、研修・会議室はもちろん、若手農業者同士や指導職員との相談、地域の方々も気軽に対話できる落ち着いたラウンジのような多様な居場所をつくります。

□研修・会議室を細かく仕切って使う場合のイメージ

- ・来庁者対応ゾーン(パブリックゾーン)とスタッフ専用ゾーン(プライベートゾーン)を明確化し、来庁者ゾーンと執務空間の区画を明確にし、書庫などの資料空間のつながりや、放射能検査やモニタリング室や土壌検査室などの独立性を担保し、機能的な庁舎をつくります。
- ・エントランス脇から執務室を設け、共有部分全体を見通せて管理がしやすい空間構成とします。

## 宿場の活気をイメージ



□研修・会議室を外から見たイベント時イメージ  
オープンスペースは、研修・会議室として間仕切りにより、少ない人数から大人数まで対応が可能です。さらに、屋内、屋外空間をつなげ開放して利用できます。直売会をはじめ、収穫祭などのお祭りイベント、見本市などにも活用が可能。

## ○積雪対応について

- ・一見複雑に見える屋根も、屋根同士には片屋根の高低差をつけることで谷を作らない形状とし、耐雪とし、適切な樋、雪止めを設けることで対処します。

近隣の住宅同様の屋根サイズの集合で圧迫感なく、なじむ形



## ○日常的に立ち寄り、緊急時の災害支援場所

- ・災害時も太陽光パネル、蓄電池で電力供給でき、オストメイト完備の多目的トイレなど、一時避難、支援場所としての機能。
- ・縁側ベンチは、炊き出し配布所として活用。

## □外観イメージ

## ③脱炭素時代の実現に資する木造化・木質化の実現

### 県産材を活用した木造とします。

- ・製材をベースに地域木材を最大限利用したシンプルで軽やかな構造とします。
- ・流通材の活用と木造軸組構法を基本に、本来、空間四隅に配置される耐力壁をユニットして取り出し、耐力壁ユニットごとに再配置集合させることで、鉛直や水平力に対して、同等の性能を保持する構造体とします。
- ・研修・会議室の大スパンのホールとなる場合は小断面材の集合トラスとすることで、県産材を最大限利用できる構造計画とします。



## ④省エネルギー化、再生可能エネルギー活用による環境への配慮

- ・太陽光発電設備、蓄電池、高効率な太陽光発電+蓄電池
- エアコン、検知制御やスケジュール制御のLED照明、BEMSなどの省エネ、創エネによる高効率な設備と高性能断熱材、断熱窓を採用し、明るく開放性のある空間を両立した Nearly ZEB以上の建物を目指します。
- 大きな庇 高効率エアコン 重力換気 検知制御など装備のLED照明器具
- 省エネ、創エネのイメージ

## ○共に場所をつくるプロセスを大切にします。

- ・農業者や、地域のまちの方々も巻き込んだ建設プロセスを大切にします。ワークショップなどを通して、お気に入りの場所となる地域コミュニティ拠点を目指します。そして、建設地となる住宅団地などの周辺環境との共生を考え、この場所の未来を共に考えます。
- ・気軽に訪問、交流できる場所とするために、設計、建設のプロセスを手作り新聞などの魅力的な広報物などで、地域のまちの方々に伝え、完成を待つ機運を高めます。